



# 一般社団法人日本スーパーマーケット協会

## 平成27年11月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	55,319,685 万円	100.0%	102.8% (105.1%)	52,924,519 万円	100.5% (102.7%)
食 料 品	46,423,554 万円	83.9% (84.6%)	103.4% (105.1%)	44,697,818 万円	101.3% (102.9%)
農 産	6,488,867 万円	11.7% (13.1%)	105.8% (109.1%)	6,252,536 万円	103.6% (106.8%)
水 産	4,539,279 万円	8.2% (8.0%)	102.2% (104.1%)	4,364,156 万円	99.9% (101.7%)
畜 産	6,038,163 万円	10.9% (10.5%)	102.1% (104.0%)	5,791,248 万円	99.7% (101.4%)
惣 菜	5,129,954 万円	9.3% (9.5%)	104.4% (107.5%)	4,914,537 万円	102.0% (104.7%)
日配食品	10,432,075 万円	18.9% (18.9%)	103.5% (104.4%)	10,056,732 万円	101.4% (102.3%)
加工食品	13,795,216 万円	24.9% (24.5%)	102.9% (103.5%)	13,318,610 万円	101.1% (101.6%)
生活関連	3,702,563 万円	6.7% (6.5%)	100.5% (104.6%)	3,571,146 万円	99.1% (102.9%)
衣 料 品	1,820,993 万円	3.3% (3.1%)	93.0% (102.0%)	1,723,501 万円	92.0% (100.8%)
そ の 他	3,372,576 万円	6.1% (5.8%)	102.7% (107.3%)	2,932,053 万円	96.7% (101.6%)

### ② 数 値

全店総売上高	55,319,685 万円	店 舗 数	4,826 店舗
総売場面積	9,453,154.7 m <sup>2</sup>	総従業員数	260,746 人

店舗平均月商	11,462.8 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,868.2 円 (101.4%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	5.9 万円 (6.0 万円)	平均店舗面積	1,958.8 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	19.3 万円 (19.9 万円)	パート比率(前月)	77.7% (77.7%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 11月の天候は、全国的に曇りや雨の日が多く、多雨・寡照となった。特に西日本において、月間日照時間が平年の7割強となり、統計開始以降、最も少ない記録となった。一方、気温は全国的に高い日が多かった。特に中旬は、記録的な高温となった
- ・ 昨年と比べ、月曜日が1日多く、土曜日が1日少ない曜日回りであった
- ・ 青果は、中旬から相場安の展開となった。また、精肉は、引き続き牛肉の相場が高騰している

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・ 野菜は、中旬以降、前月から一転し相場安の展開となった
- ・ 記録的な高温の影響により、トマトを中心にキャベツ、レタス、ブロッコリーなどのサラダ材料野菜の動向が良かった。一方、菌茸類を中心の鍋材料の売れ行きが鈍かった
- ・ 果実は、前月に引き続き、食味の良いみかんや、安定して供給されているバナナが好調に販売できている。一方、りんごは相場高の影響もあり、その販売はあまり振るわなかった

### ○ 水産

- ・ 旬を迎えた「カキ」の販売に力を入れた企業が多かった。結果として、気温高の影響により生食用の需要が増えた。一方、鍋材料としての加熱用は、他の関連商材共々需要が減り、昨年並みの売上となった
- ・ 上項目と同じ要因により、刺身などの生食需要が拡大、好調に販売できた

### ○ 畜産

- ・ 牛肉（特に国産）の相場が高騰しており、販売点数の減少傾向が見られる
- ・ 一方、豚肉は、気温高による鍋材料の需要減少の影響を受けつつも、牛肉からのシフトもあり、比較的好調に販売できている
- ・ 加工肉における、健康への懸念報道による影響は、依然として残っている

### ○ 惣菜

- ・ 新商品の投入や、ボジョレー解禁に合わせた洋食メニューの提案などが活発に行われ、前月に引き続き、全般的に好調
- ・ 気温高を受けて、サラダや唐揚げ、カキフライなどの揚げ物の需要が拡大、好調に販売できた

### ○ 日配・加工食品

- ・ 日配は、和日配（練り物など鍋材料）の売上は振るわなかったものの、洋日配は、機能性ヨーグルトやデザートを中心に好調に推移
- ・ 加工食品は、飲料、ビールが好調に推移する一方、鍋つゆ、餅などの季節商品の売上は振るわなかった
- ・ 米の単価が下げ止まったことにより、売上が回復基調にある

○ 「クリスマス」の取り組みについて

- ・ 取り組みテーマとして、家族や親しい仲間内での「スモールパーティー」需要への対応を掲げる企業が目立つ
- ・ 従来の洋食メニュー提案に加え、ワインなどの酒、外国産または、高級チョコレートなどの菓子を訴求する提案も見受けられる
- ・ ローストチキンは国産を中心に訴求。また、フライドチキンへの注力強化を進める企業が多い

○ 「年末予約マーケット」の状況、取り組みについて

- ・ おせち、クリスマスケーキの予約状況は、出足としてはほぼ昨年並み
- ・ クリスマスケーキは、有名店、専門店監修などのプレミアム付きオリジナル商品を付加するなど、主に高価格帯商品を強化する動きが目立つ
- ・ おせちは、洋風（オードブル）の品目を増やし、全世代からのニーズに応える取り組みを進めている

以 上